



北東アジア青少年環境グローバルリーダー育成事業

东北亚地区环境体验活动

동북아시아지역 환경체험 프로그램

Международный молодёжный
экологический Симпозиум



テーマ「生物多様性保全」

2016年8月19日(金)～20日(土)
ロシア連邦沿海地方ウラジオストク市

主催：ロシア連邦沿海地方、日本国富山県

北東アジア青少年環境グローバルリーダー育成事業プログラム

8月18日(木)

- 6:00頃 遼寧省到着(ウラジオストク空港 4:35 到着)
- 8:30頃 ハバロフスク到着(ウラジオストク駅 8:15 到着)
- 15:20頃 江原道到着(ウラジオストク空港 13:50 到着)
- 17:30頃 忠清南道、慶尚南道到着(ウラジオストク空港 16:00 到着)
- 18:15 ~ 19:00 夕食(遼寧省・ロシア・韓国) [2階 喫茶店]
- 19:00 ~ 20:00 レジストレーション(遼寧省・ロシア・韓国)
- 20:00 ~ 21:00 学校案内、滞在中の注意事項等 (ロシア・韓国) [大会議室]
- 21:00 ~ 22:00 打合せ 引率者集合 [大会議室]
- 21:00頃 富山県到着(ウラジオストク空港 19:15 到着)
- 21:00 ~ 22:00 富山県 夕食、レジストレーション(滞在中の注意事項等)
- 22:00 ~ シャワー、就寝
- 23:30頃 黒龍江省到着(ウラジオストク空港 22:00 到着)
- 23:30 ~ 22:00 黒龍江省 夕食 就寝

8月19日(金)

- 7:30 起床、シャワー
- 8:30 ~ 9:15 朝食 [2階 喫茶店]
- 9:15 ~ 9:40 打合せ 引率者 [5階 9502 教室]
- 9:40 ~ 9:55 参加者受付 [1階 ロビー]
- 10:00 ~ 10:45 開会式
 - 開会挨拶
 - ・E. ヴィシニャコフ 沿海地方副知事
 - ・長坂富山県理事・生活環境文化部次長
 - ・ウラジオストク国立経済サービス大学 国際言語学校 学生
 - 基調講演
 - ・A. アンドリアノフ ロシア科学アカデミー(学者)・海洋生物学研究所長
 - ・N. フリストフォーロヴァ 極東連邦大学ユネスコ国際学科「海洋環境」教授
- 10:45 ~ 11:30 参加者による活動発表(4団体)
 - ・ウニは人間の健康のための貴重な栄養源(沿海地方)
 - ・To know is to love(富山県)
 - ・ズグロカモメの索餌地の生態系復元に関するプロジェクト(遼寧省)
 - ・楊口高校の生態研究サークル「オンセミロ」の活動(江原道)
- 11:30 ~ 12:00 休憩、(主催者記者会見)
- 12:00 ~ 12:45 参加者による活動発表(4団体)
 - ・両生類は自然環境の指標である(ハバロフスク地方)
 - ・環境保全活動(緑の環境守り隊、学校や家での環境保全活動)(忠清南道)
 - ・身近なことから環境と生物多様性を守る(黒龍江省)
 - ・温室効果ガスを減らして地球環境を保護しよう(慶尚南道)
- 12:45 ~ 13:30 ポスターセッション
 - ・活動発表内容のパネル展示、フリーディスカッション(質疑応答)
- 13:30 ~ 14:30 昼食 [2階 喫茶店]、記者会見(海外団体からの代表者)
- 14:30 ~ 16:15 環境保護活動(12~20人/組)①、②をグループ別に交替で実施
 - ①植物の絵、写真を使ったポスター作り [5階 9505、3階 9311 教室]
 - ②海ごみのアート制作 [3階 9310、9309 教室]
- 14:30 ~ 16:15 引率者・教員のための円卓会議
 - 環境教育分野での活動について。意見交換
- 16:15 ~ 16:30 休憩
- 16:30 ~ 18:15 環境保護活動の続き

18:15 ~ 19:00 夕食 [2階 喫茶店]
19:00 ~ 19:30 自由交流
19:30 ~ 21:30 レクリエーション (文化、スポーツ、ゲーム等プログラムへ参加)
21:30 ~ 22:00 夜食 [2階 喫茶店]
22:00頃 シャワー・就寝 [学生寮]

8月20日 (土)

7:30	起床、シャワー	
8:30 ~ 9:15	朝食 [2階 喫茶店]	
9:20	参加者集合、注意事項等の説明	
9:30 ~ 10:00	エクスカージョン移動 (グループ1、2に分かれて見学) (貸切バス)	
	グループ1 (中国、韓国)	グループ2 (日本、ロシア)
10:00 ~ 11:30	植物園 活動	海洋生物学研究所 見学
11:30 ~ 12:00	休憩	休憩
12:00 ~ 12:20	移動	移動
12:20 ~ 13:50	海洋生物学研究所 見学	植物園 活動
13:50 ~ 14:30	学校へ移動 (貸切バス)	
14:30 ~ 15:30	昼食 [2階 喫茶店]	
15:30 ~ 16:15	交流会のリハーサル	
16:15 ~ 16:45	休憩	
16:45 ~ 17:45	閉会式 環境宣言 2016 の発表	
18:00 ~ 18:45	夕食 [2階 喫茶店]	
19:00 ~ 21:00	交流会 ・歌・踊り ウラジオストク市青少年アンサンブル ・各国参加者出し物披露	
21:30 ~ 22:00	夜食 [2階 喫茶店]	
22:00頃	シャワー・就寝	

8月21日 (日)

7:15 ~ 9:15 朝食 [2階 喫茶店]
各自治体、帰国もしくは、エクスカージョン

8月22日 (月) ~

中国遼寧省、黒龍江省 エクスカージョン

帰国日程

黒龍江省 8月22日 空港 19:05
中国遼寧省 8月24日 空港 23:25

ウニは人間の健康のための貴重な栄養源

- 1 自治体名：沿海地方
- 2 発表者名：ペレホジェワ・ダリア (Perehozheva Daria) ナホトカ市「児童及び青少年のツーリズム、見学の家」
- 3 活動名：ウニの調査
- 4 活動期間：2015年7月 - 9月
- 5 活動場所：沿海地方、ナホトカ周辺の入江
- 6 活動参加人数：2名
- 7 活動をはじめた経緯：

人間にとって、ウニはかけがえのない生物資源である。ナホトカ周辺の湾にはどれぐらいウニが生息しているのか、どのぐらいの価値があるのか調べることにした。

- 8 発表要旨：

目的：ウニは人間の健康のための貴重な栄養源になるかどうかを調べる。

課題：ウニについての情報収集、ナホトカ周辺のウニの調査、ウニの価値の調査。

2015年6月 - 9月アンナ湾ではウニ調査を行った。参考書を活用して、ウニの分類を特定した。

球形の2種類、平板型の2種類で、合わせて4種類を特定した。まれに見られるのはオカメブヅク (*Echinocardium cordatum*) とホクヨウハスノハカシバン (*Echinarachnius parma*) である。もっともよく見かけることができるのはキタムラサキウニ (*Strongylocentrotus nudus*) である。人間活動の影響が少ない入江ではウニの数が比較的に多かった。

2015年9月21日、ヴォルナ浜では多くのエゾバフンウニ (*Strongylocentrotus intermedius*) が集中していた。産卵のためにここに集まってきたのではないかと推測した。

調査結果：

- 1) ウニは人間の健康の貴重な栄養源であることが分かった。ウニの卵巣と精巣に含まれている栄養素ががん予防、血圧正常化、体内から放射性物質を除去する。また、免疫力を高め、胃腸の病気を和らげ、心臓血管系、甲状腺および生殖腺の機能を改善する。
- 2) 日本海に面しているナホトカとウラジオストクでは6種類のウニが生息している。調査しているとき、エゾバフンウニ、キタムラサキウニ、ハスノハカシバン (*Scaphechinus mirabilis*)、ハイイロハスノハカシバン (*Scaphechinus griseus*) という4種類を発見した。
- 3) エゾバフンウニが食用に使われているから、最も数が少なかった。
- 4) 海水浴場の利用者の人数が多ければ多いほど、ウニの数が少なくなっていく。ビーチの利用者はウニを食用に取っているからである。
- 5) 自然の中でのウニの役割が大きい。ウニが海の衛生状態を守っている。
- 6) ウニは優れた「天気予報士」の能力を持っている。ウニの行動を観察すると、暴風雨が近づくことが分かり、予防措置をとることができる。
- 7) 学校で実施したアンケートによると、生徒がウニについての知識が乏しい。
- 8) 絶滅危機に瀕している生物になる前に、ウニの捕獲を制限するべきである。

To know is to love

- 1 自治体名：日本 富山県
- 2 発表者名：荒木 美乃・安居 愛・高岡 千夏（富山県立大門高等学校）
- 3 活動名：大門高校周辺地域を対象とした生態系調査
- 4 活動期間：平成 28 年 5 月～
- 5 活動場所：大門高校及び学校周辺
- 6 活動参加人数：4 名
- 7 活動をはじめた経緯

これまで大門高校では、「国際理解・国際協力」に関する活動並びに「環境問題」に取り組む活動を推進することを目的に国際環境委員会を設置したり、情報コースの課題研究で環境をテーマにした研究を実施したりと環境の保全に関わる活動に取り組んできた。生物多様性の保全が叫ばれる中、これまでに生物をテーマにした研究はなされていなかったため、今年度は地域の生態系を知るために学校周辺の生物の調査を始めた。調査を進めるうちに、生物多様性の推進にはまずは身近な生物たちを「知ること」が重要だと気づいた。

- 8 発表要旨（図表を含む）

生物多様性の重要性について様々なところで目にするが、日本の現状として生物多様性への関心が薄れつつあるという世論調査が出ている。大門高校でも調査を行ったところ、「生物多様性という言葉は知っているが意味は知らない」と答えた生徒の割合が最も高く、生物多様性の保全について浸透していないことが窺えた。調査結果より、関心の薄れは身近な生物の存在を知らないことに大きな要因があると考え、高校周辺に生息する生物の調査を開始した。方法は以下のとおりである。

(1) 周辺地域で見かけた生物の調査と目視観察による調査

(2) ペリット内容物による生息個体種の調査

この調査により明らかになった日常生活の中ではなかなか目にするできないけれどすぐそばでともに暮らす野生生物の姿を学校だけでなく広く地域に発信していきたいと考えている。そして生物の多様性について生徒や地域の人々と考える機会にしたい。

- 9 発表時の発表媒体の有無
有（Power point）

ズグロカモメの索餌地の生態系復元に関するプロジェクト

- 1 自治体名：中国 遼寧省
- 2 発表者名：盧 明珣（遼寧省実験中学校 高1）
王 鶴霓（東北育才外国語学校 高2）
- 3 活動名：ズグロカモメの索餌地の生態系復元に関するプロジェクト
- 4 活動期間：2015～2018年
- 5 活動場所：盤錦市双台河口自然保護区南小河保護センター
- 6 活動参加人数：グループ活動の参加人数は20人
プロジェクト参加のボランティア人数は2000人

7 発表概要：

ズグロカモメの索餌地におけるゴカイ資源が次第に枯渇するため、ゴカイの卵を人工養殖し、ズグロカモメの索餌地に撒くという方法でプロジェクトを実施している。このプロジェクトはまず、山東省萊城、河北省楽亭と遼寧省丹東からゴカイの母体を採取し、それから、盤錦に運送し、さらに当地の孵化場で人工孵化をする。孵化した卵を順次に索餌地に運び、撒く。また、母体の出生地にも戻す。このプロジェクトはエビの孵化場を利用しているため、施設を新しく作る必要がなく、資金の節約にもなる。また、孵化を世話するボランティアを募集し、ゴカイの卵の自然成長と増殖を見守り、ゴカイ資源とズグロカモメの索餌地の生態系を復元する。

このプロジェクトは3年連続で実施する。“鳥にしか与えなくて、人が取ってはいけない”という原則を守り抜くことにより、ゴカイ資源が徐々に復活し、次第にズグロカモメの索餌地の生態系も回復していく。

以下の三つのポイントについて、順次に発表していく。

- 1、環境保護活動グループの由来について紹介する。
 - 2、ズグロカモメ、ズグロカモメ保護協会、ゴカイについて紹介する。
 - 3、ズグロカモメの索餌地の生態系復元に関するプロジェクトの参加・進捗状況について紹介する。
- 8 発表時の発表媒体の有無
有（Power point）

楊口高校の生態研究サークル「オンセミロ」の活動

- 1 自治体名：韓国 江原道
- 2 発表者名（所属名）：楊口高等学校（Yanggu） 金・潤洙(Kim・yoonsu) 2年
- 3 活動名：楊口高校の生態研究サークル「オンセミロ」の活動
- 4 発表要旨：

1) オンセミロ紹介：オンセミロは‘自然のまま、いつも変わらず’という意味を持っている韓国語で、楊口地域の生態を研究する楊口高校学生の集まりです。

2) 研究活動

A. 山火事地域の植生変化について研究 (2016年)

江原道楊口で発生した山火事地域を訪ねて山火事地域の植生がどのように変化しているのかを調査し、研究活動に取り組んでいる。



B. 環境変化による イヌクララ（狗苦参 Korean Necklace-pod）自生地を調査(2015年)

地球温暖化によって韓国で絶滅危機種植物になっているイヌクララの自生地を調査して、環境変化によってイヌクララがどのように繁殖をしているのかを調査した。



3) 体験活動



植物細密画
(Botanical Arts) 教育



植物細密画
(Botanical Arts) 教育



植物細密画
(Botanical Arts) 教育



楊口生態植物園
体験活動



楊口生態植物園
体験活動



金剛山に行く
昔の道を歩く大会



金剛山に行く
昔の道を歩く大会



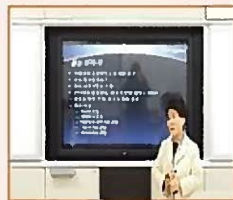
ラムサール条約
大巖山竜沼探訪



ラムサール条約
大巖山竜沼探訪



大学教授の生態環境
特別講座



大学教授の生態環境
特別講座



学校の森を育てる



学校の森を育てる



花を育てる



花を育てる

4) ボランティア活動



森の体験プログラム
ボランティア活動



森の体験プログラム
ボランティア活動



楊口の自然環境写真
展示会



楊口の自然環境写真
展示会



大韓民国教育博覧会



大韓民国教育博覧会

両生類は自然環境の指標である

- 1 自治体名：ロシア連邦 ハバロフスク地方
- 2 発表者名：セルデュコワ アナスタシア (Serdyukova Anastasiya)
ハバロフスク地方立教育施設 児童創造センター「パラード」
ソヴェツカヤ・ガヴァニ市 (Sovetskaya Gavan)
- 3 活動名：両生類の動物相の調査
- 4 活動期間：2015年夏季
- 5 活動場所：ハバロフスク地方
- 6 活動参加人数：2名 (第15号学校の教員と)
- 7 活動を始めた経緯：人間活動による両生類への影響を調べるために
- 8 発表概要：

ハバロフスク地方はロシア連邦極東地方の中心部に位置している。ここでは、ニホンアマガエル (*Hyla japonica*)、アジアヒキガエル (*Bufo gargarizans*)、トノサマガエル (*Pelophylax nigromaculatus*)、キタサンショウウオ (*Salamandrella keyserlingii*)、チョウセンズグガエル (*Bombina orientalis*) 等様々な両生類が生息している。

ハバロフスク地方に生息している両生類は生息する地域によって「南方」と「北方」という二つのグループに分けられる。

両生類は、人間が環境に及ぼす影響の指標生物である。生物学者によると、脊椎動物門に属している動物の中で最も早い速度で絶滅しているのは両生類である。20世紀末、科学者たちは両生類が絶滅する多数のケースに注目を集めた。

有尾目と無尾目(カエル目)の破滅的な絶滅の主な原因は自然(病気のまん延、気候要因)と人間活動(農業、産業活動)によるものである。

両生類は農業害虫を食べる。多くの両生類は夜行性のため、昼間鳥が食べることができない害虫を食べる。そのため、両生類は我々にとって特別な存在である。

多くの両生類は水と関わりのある生涯を送っている。水中に産卵し、幼生は水の中で成長する。しかし、多くの種類の両生類の成体は大部分の時間を陸で過ごしている。

学校の生徒は様々なところで両生類の分布の調査を行っている。その目的は両生類のことをよく知ること、調査結果を学校の行事で活用すること、必要に応じて両生類を保護することである。

私も無関心でいらなかった。2015年の夏、ソヴェツコ・ガヴァニスキー地区マイスキー (Maiskii) 町周辺では、様々な生物生息空間(ビオトープ)に両生類がどのように適応しているかフィールドワークを行った。

調査期間中、マイスキー町周辺の両生類の種の分布を確認できた。最も多く見られたのはチョウセンヤマアカガエル (*Rana dybowskii*)、黒龍江林蛙 (*Rana amurensis*)、アジアヒキガエルである。

アジアヒキガエルの好きな生息地は畑で、チョウセンヤマアカガエルと黒龍江林蛙がナンテ (Nante) 小川の岸を好んでいる。マイスキー町中心部では両生類は見られなかった。低層建築物周辺では種の多様性が低い。ナンテ小川周辺の森林や公園では種の多様性が高い。

調査結果によると、ソヴェツコ・ガヴァニスキー地区の両生類へ与える人間活動の影響は大きくない。アジアヒキガエルのようないくつかの種類は住宅地にも見られる。

黒龍江林蛙、チョウセンヤマアカガエル、アジアヒキガエルは中国と韓国にも生息している。チョウセンヤマアカガエルは日本にも生息している。

私たちは違う国に住んでいるが、生物相と植物相で多くの共通点がある。これからも一緒に生物多様性を保護しよう！

- 9 発表時の発表媒体の有無
有 (Power point)

環境保全活動(緑の環境守り隊、学校や家での環境保全活動)

- 1 自治体名：韓国 忠清南道
- 2 発表者名：シン・ヘリ (shin・haeri) 扶餘郡 (buyeogun) 百濟(baekje)中学校 3年
- 3 活動名：環境保全活動(緑の環境守り隊、学校や家での環境保全活動)
- 4 活動期間：2016年 上半期
- 5 活動場所：忠清南道 扶餘郡一帯
- 6 活動参加人数：環境サークル 20人余り
- 7 活動を始めた経緯：

地域環境に対する探究、討論活動などを通じて環境に対する正しい価値観を培うことができるように手伝ってくれるサークル活動に参加。
- 8 発表要旨：環境サークル活動の中で環境保全優秀事例などを発表
 - 1)紹介：外国人が見ている韓国と扶餘郡、百濟中学校を紹介する
 - 2)環境保全活動：
 - a. 「緑の環境守り隊」の環境保全活動
(大気、水質汚染度を測定し、この地域の汚染度を調べて周辺の動植物を把握する生態モニターリングに取り組んでいく)
 - b. 学校の中での環境保全活動
(環境ボランティア活動、給食残飯のない日、畑で植物を育てる、環境関連本読みを実施する)
 - c. 家の中での環境保全活動
(節電ノートの作成、使わないコンセントは抜く、シャンプーを少なめに使う、エアコンの代わりに扇風機と団扇の使用)
 - 3)未来の環境保全：未来の環境保全のために化石燃料の使用量を減らし、太陽光エネルギー、バイオエネルギーのような新しい再生エネルギーを開発
- 9 発表時の発表媒体の有無
有 (Power point)

身近なことから環境と生物多様性を守る

- 1 自治体名：中国 黒龍江省
- 2 発表者名：張 澳（黒龍江省肇東市第十一中学校 一年）
- 3 活動名：身近なことから環境と生物多様性を守る
- 4 活動期間：2016年4月12日
- 5 活動場所：学校のキャンパス
- 6 活動参加人数：40人
- 7 活動をはじめた経緯：
 - (1) 植樹グループ「グリーン天使」を立ち上げた。
 - (2) “鉢花を育て、樹木の世話をし、緑地を大切にし、白い公害（ビニール袋による汚染）を避けよう”を提案した。
 - (3) “環境のポディーガード”になろう。
- 8 発表要旨（図表を含む）：
 - (1) 学校で“グリーン天使”という名の植樹活動を行う。

今年4月12日に、学校のキャンパスで学生による植樹活動する組織を作り、活動した。1年9組のクラス委員たちは“グリーン天使”という植樹グループを作り、植樹グループはリーダーとして、みんなを引率して植樹活動に取り込んだ。場所選びや穴掘りまで、植樹グループのメンバーたちは率先して皆さんと一緒に楽しく木の苗を植えた。
 - (2) 白い公害を避けよう


我々は全校で“鉢花を育て、樹木の世話をし、緑地を大切にし、白い公害を避けよう”と提案した。私は、アダプトプログラム^{*}の一環として、キャンパスの中で一本の小樹を選び、世話することになった。また、学校が主催する“活気にあふれる地球を作ろう”という署名活動に参加し、環境保全に対する気持ちと決心を込めて自分の名前を書いた。

地球は一つしかない。身近なことから、一滴の水から、1ワットの電気から、限りのあるエネルギーを節約しよう。ごみを指定される場所に捨てよう。使い捨てのコップや割り箸の使用を控えよう。積極的に環境保全のボランティア活動に参加し、地球環境を保護・改善していこう。

皆さん、自ら行動しよう。一緒に環境を守ろう
- 9 発表時の発表媒体の有無
有（Power point）

^{*}アダプトプログラム：一定の区画（樹木）を養子にみだてて、わが子のように愛情を持って面倒を見る制度

温室効果ガスを減らして地球環境を保護しよう

- 1 自治体名：韓国 慶尚南道
- 2 発表者名：パク・グンウ(チャンウォン高等学校) Park KeunWoo(ChangWon High School)
- 3 活動名：温室効果ガスを減らして地球環境を保護しよう
- 4 活動期間：2015年 3月～ 2016年 6月現在
- 5 活動場所：学校内及び学校周辺、サイバー(SNS-facebook)
- 6 活動参加人数：11名<サークル名：RE-()vering Emerge >
(パク・グンウ、キム・ピョンウン、キム・ジャンホン、パク・ジュンヒョン、チョン・ゼフン、キム・ジュンヨン、ミョン・ヒス、チョン・ミンギユ、ヨ・ガンイン、イ・ドンウク、ハン・ギョンワン)

7 活動をはじめた経緯

当サークルは2013年から活動している、科学や環境に関心ある学生のプロジェクトサークルです。主な活動は人類の共同解決課題である気候変動問題について各自興味のある教科とつなげて実践できる方案を模索し、解決しようとしているものです。2015年に続き今年も「温室効果ガスを減らして地球環境を保護しよう!」という大きいテーマの下で次のような活動をしてきました。

8 発表要旨(図表を含む)

我々のサークルでは地球温暖化による異常気象現象について学生の関心を増やすために、「学校生活の中で実践できる温室効果ガスを減らす活動」というテーマを決めて大きく分けて二つの分野について活動をしました。一つ目は、捨てられた物を利用したりリサイクル品作り、もう一つは温室効果ガスも減らすことができ欠食児童も助けることができる残飯を残さないキャンペーンである「スプーン5回をもっと」活動です。その詳細は次のとおりです。

まず、リサイクル品製作活動は、捨てられた品物を誰でも簡単に作ることができる生活用品作りに焦点を置きました。捨てられたテーブル、布類、牛乳パック等の材料を利用して地球環境時計、ホワイトボード消しゴム、給食カード集、簡易エアコン、シャワーホルダー、紙ボックススピーカー、筆箱等を作りました。特にシャワーホルダーをテストして見た結果、水の量を1/3ほど減らすことができました。また、紙ボックススピーカーは3年間現在も使用中です。

また、他の活動では生ごみを減らして温室効果ガスも減らし、その活動を通じて欠食児童も助けようという意図で始まった「スプーン5回をもっと」キャンペーン活動です。給食室で一定期間残飯の量を学生数で分けたら学生1名当りスプーン5回だけ増やして食べればゴミの量を減らすことができるということから始めた活動です。2013年から現在までオフライン及びオンラインで持続的に活動及び運営中であり、活動対象は在校生だけでなく、一般市民、そしてサイバー上のすべての対象で拡大しました。

このキャンペーンに対するオフライン活動では、生ごみに関する給食所の現場アンケート調査分析やキャンペーン関連のパネル広報活動などがあります。オンライン活動では、食べ物を残さず、きれいに食べた写真を載せれば地域企業家の後援を受けて1枚当たり400ウオンの積立金ができ、このお金で地域及びアフリカの飢餓の人を後援方法で、SNS(facebook)で「スプーン5回をもっと」ページを運営しています。キャンペーン広報のために自動車ステッカー、QRコードやキャンペーン内容を紹介する様々な活動誌とキーホルダーを製作しました。キャンペーン参加動画を作ってユーチューブ(Youtube)に載せて、生ゴミ及び温室効果ガス過多排出問題が我々の共同解決課題であることを知らせました。その結果2016年6月21日まで合計5770枚の写真が掲載されたし、総5回にわたって地域の欠食児童及びアフリカの飢餓の人を後援す

ることが出来ました。

その他にも科学の月行事や学校祭りではサークルブース運営を通じて、リサイクル品及び気候変動関連物展示をしたり、慶南気候環境ネットワークと連合して絶滅動物キーホルダー作りや捨てられたコーヒーカップを利用した植木鉢作りなどをしました。

このような様々な活動の結果、私たちは 2015年慶南青少年気候変動プロジェクト発表大会にて慶尚南道支社賞(最優秀賞)を、2016年 2月には大韓民国国会で緑色気候賞(優秀賞)を受賞しました。そして、4月は慶尚南道高等学校初の慶南気候環境ネットワークと温室効果ガス排出量削減のための協定を締結しました。

このような一連の活動は私たちの学校生活を豊かにして、学科勉強だけではなく人類の当面課題である気候環境問題を直視して、未来の気候環境実態を認識して自発的に気候環境変化解決策を模索して対応しようとするグリーンリーダーとして成長することができるきっかけを充分に作ってくれたと思います。

- 9 発表時の発表媒体の有無
有 (Power point)

2015 海辺の漂着物調査

- 1 自治体名：韓国 江原道
- 2 活動名：2015 海辺の漂着物調査
- 3 活動期間：2015.09.01 ~ 2015.12.31

調査日時	2015. 11. 01	2015. 11. 14	2015. 11. 28
場所	チュムンジン領津 (ヨンジン) 海辺	ヤンヤン河趙台 (ハジョデ) イング海辺	カンヌン鏡浦台 海辺

- 4 参加人数：10名以内
- 5 活動を始めた経緯

◇ 目的

- ・海岸の漂着物を回収分析し、種類別に重量を調査することによって、プラスチックなどの人工物による海辺の汚染実態を把握すると同時に、これからの海洋環境保全対策、廃棄物対策及び漁場保全対策などを推進するための基礎資料として活用できる。
- ・海辺の漂着物調査活動を通じて、海の環境を守ろうとする心を育て、北東アジア海沿岸周辺国である韓国、中国、日本、ロシアは環境問題で互いに密接な関係を持っていることを再認識し、世界的な視野で環境問題を解決しようとする共同体認識を持つためである。

◇ 調査方法

- ・季節別調査を原則とし、調査シーズンを代表する時期を選定し実施(調査は9~11月の中で1回実施)
- ・原則、査範囲は波打ち際から陸地方向へ連続的に縦横10mの区画を3区画程度(30m程度)設定
- 調査区画内の漂着物を区画毎に次の8種類の大分類に区分し、重量及び個数を測定し、漂着物の印字から小分類別に国内製造品と海外製造品に分けて個数も数える。

- ① プラスチック類 ② ゴム類 ③ 発泡スチレン類 ④ 紙類
⑤ 布類 ⑥ ガラス・陶磁器類 ⑦ 金属類 ⑧ その他の人工物



[チュムンジン領津 (ヨンジン) 海辺]



[ヤンヤン河趙台 (ハジョデ) イング海辺]



[カンヌン鏡浦台海辺]

活動写真

